

特集
ソーシャルって何？
その2

Special
Feature
What does
"social"
mean?



対談

動物学者

山極 寿一

植物社会学者

濱野 智史

長年アフリカでゴリラの社会の
研究を続けてきた山極寿一と、
ソーシャルメディアから現代社会の研究に
取り組む濱野智史。

ふたりの対話からは、サルと人間をつなぐ
多様な「ソーシャル」のあり方が見えてきた。

人間は正しく「サル化」しているか？

胸をたたき、音を出す
「ドラミング」中のオスのゴリラ。
敵への挑発ではなく、
相手に自分の興奮や好奇心を
伝えるための社会的な行動だ。

(写真提供…山極寿一)

現代の象徴・

携帯と

ソーシャル

メディア

section 1

濱野 ここ3、4年、ソーシャルという言葉が急にいろいろな場所で見られるようになりましたが、やはり背景にはソーシャルメディア、フェイスブックやツイッターの隆盛があると思います。山極先生はソーシャル

メディアは使われていますか。山極 やらないですね。そもそも携帯電話も持っていないんです（笑）。

濱野 そうなんですか！

山極 面と向かって話しているときに携帯を優先する人がいますが、優先順位が逆じゃないかと思います。対話という直接的なコミュニケーションで対峙しているのに、電話の向こうの世界を優先して、こちらの世界にいないという不在感がある。

つい最近までは、直接対面して話すということは非常に重要なことでした。だから、面接や商談が重視された。お互いの気持ちを通じさせる、最良の手段だったわけです。でも、今という時代は、むしろそれを避けようとしているようにすら思える。顔を合わせない方が自分のイメージもコントロールできますしね。

濱野 現代人の防衛機構かもしれません。2013年にアメリカで流行ったのは「セルフイー」と言っ、携帯で自分の顔を撮ってネットにアップすることです。まさに、自分のイメージをコントロールしようという意識が表れたものだと思います。

山極 今は、自己実現、自己責任の時代と言われていますが、携帯はその象徴です。他人を使っ、実は自分と対話しているのが携帯だと思。携帯がない時代の人たちは、まさに他人の目や声を通じて自己を確立していたわけです。でも、携帯があると、他人と会わなくてもよくなる。携帯でメッセージやら何やらが入ってきて、自分がひとりじゃないということを確認しつつ、実はすごく内向きになっているんじゃないかと思。濱野 社会学でも、ギデンズという人が、現代は再帰性が上昇している時代だと言っています。携帯だけではなく、若い人がなぜソーシャルメディアを使うかということを考えると、彼らにはどっしりとしたアイデンティティがないからだと思。確固とした自我がないから、周りの友人との関係性を通じて自我を作り続けなければ

しているのかというと、子どものときからずっと人間と一緒に生活するんだそうです。そうすると、子どものライオンやトラは、飼育員を親の仲間だと思っ、咬まない。少なくとも群れを作るような動物というのは、社会性、関係性を作ることができるんだと思。山極 私の先生の先生である今西錦司は、『生物の世界』（1941年）で、社会はすべての生物にあると宣言しました。それまで社会は人間だけのものだと思われていた。なぜなら、言葉が社会を作ると思。濱野 理性を持つものだけが社会を持つということですね。山極 今西さんは、社会とは、個と個がコミュニケーションを取り合う空間、ネットワークであると定義しました。個体を認識し合えるとすれば、人間でなくともそこには社会があるというわけです。そしてニホンザルを観察した結果、個体識別していることがわかり、サルにも社会構造があるという結論に達したわけです。

しているのかというと、子どものときからずっと人間と一緒に生活するんだそうです。そうすると、子どものライオンやトラは、飼育員を親の仲間だと思っ、咬まない。少なくとも群れを作るような動物というのは、社会性、関係性を作ることができるんだと思。山極 私の先生の先生である今西錦司は、『生物の世界』（1941年）で、社会はすべての生物にあると宣言しました。それまで社会は人間だけのものだと思われていた。なぜなら、言葉が社会を作ると思。濱野 理性を持つものだけが社会を持つということですね。山極 今西さんは、社会とは、個と個がコミュニケーションを取り合う空間、ネットワークであると定義しました。個体を認識し合えるとすれば、人間でなくともそこには社会があるというわけです。そしてニホンザルを観察した結果、個体識別していることがわかり、サルにも社会構造があるという結論に達したわけです。

真でも偽でもありうる視覚

山極 サルや人間が社会を作るうえで特に重要なものは何だと思いますか。

濱野 何でしょう？

section 3

山極 視覚です。鳥だったら音声で識別し合えるかもしれない。でもサルや人間は、視覚で個体を識別できる要素がないと、そこにソーシャルなものを認知できないんです。つまり、社会のおおもとは視覚がある。

濱野 なるほど。ではフェイスブックというのは、人間がサル時代からやっていることの延長でもあるわけですね。

山極 しかも、個体識別には顔が大事なんです。顔でお互いの関係を見分けている。関係の集積というのはひとつの構造、つまりネットワークになります。フェイスブックもそうなんだと思。濱野 フェイスブック、日本語にするとまさに、「フェイス＝顔」の「ブック＝本」、つまり顔の集積です。

山極 フェイスブックのようなサービスが流行る理由はなぜか。視覚情報をきちんと確認しながら他人と付き合うのには、移動のコストや時間がかかります。それを省くために、通信手段や映像を使っ

社会を持つのは人間だけではない

section 2

間を受け入れさせる。

濱野 ゴリラたちを、人間がいるという状況に馴れさせるわけですね。

山極 空気のような存在、向こうに関心を持たなくなるのが一番いい。

濱野 なるほど！

山極 これが大変なんです。今アフリカのガボンへ調査に行っていますが、馴れられるまでに、2002年から2012年の間で、実質8年かかりましたからね。イライラしてこちらを攻撃してくることもある。ほくもメスに襲われて、頭と足を咬まれて、頭5針、足17針縫いました。ただ、ほくの誇りは、体の前面を咬まれたことです。逃げ出していたらおしりを咬まれるでしょう？ 逃げずに咬まれたんです。まあ、負け惜しみですけどね（笑）。

濱野 （笑）テレビで見たんですが、メキシコに、ライオンやトラを飼ひ馴らしている施設があるそうですね。どうやって飼ひ馴ら

て仮想的な視覚的空間の中でネットワークを作っているわけ。だから実は、昔とやっていることはあまり変わらない（笑）。ただ、落とし穴もあると思。われわれは、視覚情報はリアリティが高いと普段思っているけれども、意図的に作ることもできるものなんです。

濱野 でも、感覚の中には作れないものもありますよね。

山極 その通りです。例えば、嗅覚や触覚は作ることが非常に難しい。だから、実はそちらの方が信頼性が高いんです。仲のよいサル同士がどういいうコミュニケーションをするか。グルーミングです。グルーミングというのは、接触、すなわち触覚によって気持ちや態度を確認し合う行動と言。あるいは、においも自分で操作できない。例えば、ゴリラは緊張すると、腋の下のアポクリン腺から特有のにおいを出します。興奮したことがにおいによって隠せなくなってしまう。でもそれは、情報としてはとても正直なものなんです。

濱野 嘘をつけないわけですね。山極 でも視覚情報は、見て見ないふりをするとか、怒ったふりをするとか、自分で操作することができます。サルは、自分では操作できない嗅覚や触覚によって、コミュニケーションの信頼性を担保しているとも言。困っている人を助けずには

人間は困っている人を助けずにはいられない存在

section 4

濱野 ところで、ちょっと前まで「ソーシャル」と言うと、他人のために何かしてあげるといいうイメージがありましたよね。社会福祉、社会主義の「社会」です。

山極 かつてソーシャルという言葉

個体を認識できるとすれば、人間でなくともそこには社会がある
— Yamagiwa Juichi



Photo by Kita Akira

フェイスブックは、人間がサル時代からやっていることの延長でもある
— Hamano Satoshi

には、自分の欲を抑制してでも相手の喜ぶ姿が見たいというニュアンスが、どこか流れていた。それが現代では、個人の利益を最大化するために集まるということがソーシャルになってきているのではないかと思うんですね。それもひとつのソーシャルのあり方だとは思うんだけど、個人主義的ですよ。その二つは相容れないものがあると思う。

濱野 19世紀、20世紀に、「社会主義」とか「社会党」といったような意味で使われていたソーシャルは、今のソーシャルという言葉をめぐる状況からはかなり抜け落ちていような感じがします。企業がソーシャルと言うときにはそういうニュアンスもあると思うんですけど。そういう言葉の重みはだいたい抜けて、個人が気軽に参加して、というように意味に置き換わっているのは事実です。

山極 サルの社会というのは、個人の利益を最大化するために集まったものです。ニホンザルの社会であれば優劣があつて、ケンカをしないように劣位のものが必ず引くというようになっている。でも人間というのは、何かしてあげれば必ずお返しが来る、何かをしてもらったらお返ししなくちゃいけないという関係性があつて、それで地域社会というものが作られてきた。そして、だれか困っている人がいたら助けずにはいられないというのが人間だと思います。東日本大震災ではその感情で多くの人が動いたんですが、それが継続しているかという、それでもなさそうなのが残念です。

社会と風土は切っても切り離せない

section 5

山極 なぜ人間が集団を作つて生きていくか。それは、思い出、歴史を埋め込んだ風景なり場所が必要だからなんです。新しい空間に人間を集めただけでは社会は作れない。人々が生きてきた歴史があり、その上に人々の行動や関係性が作られているからこそ、安定的にソーシャルなものが続いていく。

濱野 新しく社会を作ろうと思つたらこんなに大変なのかということとを、東日本大震災は教えてくれました。

山極 社会と風土というものは、切っても切り離せない関係にあります。人間は死者とともに生きていて、祖先が里山や畑に息づいているからこそ、自分の身体がそこにある理由が見出せる。記憶が風

えてくると、直接知らない人もフォローしてくるので、炎上しやすくなる。

山極 ソーシャルメディアの人間関係というのは、実は1対1の関係性です。ひとりから見ると、放射線状に友達がいる。でも、外から見るとネットワークになっているという奇妙な構造をしています。1対1の関係というのは、調整が利かないから炎上しやすいんですよね。

濱野 なるほど、そうですね。

山極 1対1でも問題が解決しやすいのは、両者に格差がある場合ですね。相手を屈服させて、従わせる。これは炎上しにくい。でもお互いが対等だと、トラブルがあつたときに収拾がつかなくなる場合がある。

濱野 ソーシャルメディアも、実は、一方ではだんだん規模を小さくする方向に進んでいます。

山極 そうなんですか。

濱野 アメリカで、友達を150人までしか登録できないSNSというのも出てきているんです。だれとでもつながれてコミュニケーションが取れるというのは、利便性もあるぶん、こわいなという認識も出てきたんだと思います。山極先生のお話をうかがつていて、まさに人間の本性に従った方向の進化なんだなという気がしました。それが全面化しているわけではないですけど、さすがに「ソーシャル万歳」という感じではなくなつてきているように思います。

現実で会うことを促進するソーシャルメディア

section 7

濱野 フェイスブックの創業者マーク・ザッカーバーグは「フェイスブックによつてプライバシーはなくなる」と宣言しています。もちろん、大げさなスローガンですが、ネット上に何もかも情報があれば、悪さもできなくなるし、プライバシーがないという前提で行動すればかえつてスッキリするのではないかということです。

山極 日本はまさにそうなりつつありますよね。どこにでも監視カメラがあつて、監視カメラ社会というか……。

濱野 だれもが公人になってしまう時代、それは、情報化、ソーシ

「アラブの春」では、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアが運動拡大に貢献した。



写真提供 AP/アフロ

写真提供 AP/アフロ

2010年のチュニジア民主化要求「ジャスミン革命」を発端に、運動が他国にも波及した「アラブの春」。

土に植え付けられているんです。大震災では、風土が完全に破壊されて、何もかもが跡形もなくなつてしまった。そうすると、自分がそこにいる存在理由が根こそぎなくなつてしまうわけです。その恐怖に日本人は気づかされたんじゃないか。

濱野 大震災のときには、ソーシャルメディアでは善意が連鎖しやすいということを感じました。

山極 一時的なソーシャルなものがあるという立ち上がりましたよね。**濱野** ソーシャルメディア関係の事例で言う、クラウドファンディング（14頁参照）というものがあります。震災からの復興にしても、今までであれば銀行からお金を借りたわけですが、クラウドファンディングではネットで個人から少しずつ出資を募り、例えば年に1回、醤油屋さんであれば蔵の見学会なんかを催すわけです。募金だと1回だけで関係は切れてしましますが、出資という形だと関係性が継続します。

ソーシャルメディアの人間関係、実は1対1

section 6

うのは160人くらいだという話があります。そのくらいなら顔と性格をきちんと覚えていられる。いわばひとつの集落の人数ですよね。狩猟採集民の基本的なムラの人数も160人くらいと言われて

いるんです。でも、フェイスブックで、顔も名前もわかつてい

るのか。

濱野 それはおもしろいテーマですね。フェイスブックでも、何百、何千という人とつながっている人もいますけれど、百人くらいの人も多いツイッターの場合は、知り合いの範囲内で使つてい

れば阿吽の呼吸で盛り上がるんですけど、それを超

ヤルメディアが推し進めてきた側面はあります。ただ一方で、フェイスブックは「フェイスブックはパーティ会場」、すなわち社交「ソーシャルな場だとも言っています。

山極 欧米ではプライベートな空間というのは非常にしつかりとしている。だから、社交空間がプライベートと完全に区別される形で存在しています。ただ、日本はプライベート空間があまりはつきりとしていない。

江戸時代の長屋なんて、ほとんどプライベートな空間はなかったんじゃないかな。**濱野** 今の若者の間で起きているのは、どちらかというところ

た長屋的なソーシャルという感じがします。

山極 ルームシェアも流行っていますよね。**濱野** ソーシャルメディアでおもしろいのは、結局ネット上だけでは満足できなくなつて、「オフ会」といって、実際の空間で集まり出すんです。大規模な例で言えば、脱原発デモや特定秘密保護法案反対の国会包囲などですが、ソーシャルメディアがない時代であれば、あんなに何万人も集まらなかったと思います。でも、ツイッターやフェイスブックでだれかがデモに行くと書いていたら、それほど政治的な意識がなくても、いつも書き込みを読んでいるあの人が行っているならと現地へ行つてみる。顔写真を普段見て知つていたので話しかける。もともとソーシャルメディアで親しくなつて

るので、現場で話してもスムーズにつながれるわけです。

山極 ソーシャルメディアがリアルな空間で集まることを促す動きもあるわけですね。「アラブの春」なんかもそうなんです。

濱野 まさにそうだと思います。

山極 今は他人との付き合いがコンサート会場的になつているのかもしれない。深い付き合いをするわけではないけれど、一体感を共有している状態ですね。

濱野 社交が苦手な日本人でも、ソーシャルメディアのおかげで、見知らぬ人と会うときでもコミュニケーションが取りやすくなつた。それはソーシャルメディアのポジティブな面です。

いろんな社会学者が言っていますが、今は「多元的帰属」の時代と言われています。脱原発デモのときはこういう自分、アイドルのコンサートではこういう自分というのがあるって、ソーシャルメディアでいろいろな集団とつながっている。

ソーシャルメディアにあふれる社会言語

section 8

山極 でも、ソーシャルって言うと非常に文化的な感じがするんだけど、人間って、生身の体をなかなか乗り越えられないんですよ。実は基盤にあるのは、生物学的な身体と、生物学的な心なんです。それはずっと昔からあまり変化していません。現在のようネットや機械の方へ寄っていくと、どこかで自然回帰的な動きが生じると思います。

濱野 身体性が全くなさそうに見える匿名掲示板でも、実は流行るものは身体性なんです。例えば、打ち間違いです。思わずタイプミスして書いたような言葉が受けたりする。

山極 一見身体性とは関係ない空間なんだけれど、身体性が透けて見えてしまう。そこがむしろいいですね。

濱野 あと、日本で特に発達しているものに、絵文字というものがあります。最近流行っているLINEというサービスではスタンプというものもある。

山極 (LINEを見ながら) そう考えると、言語的な手続きをどんどん省くような方向に進んでいるということですね。こういうも

山極寿一氏とゴリラ。
この距離まで近づくために
ゴリラと社会性を築くには、
何年もかかる。



写真提供 左右ともに山極寿一

ゴリラの群れは10頭前後。
細かい気持ちが察知し合える
「共鳴集団」の一種。

のを突き詰めていくと、図形的な言語を使うことによって言葉の違いを乗り越えられるかもしれない。

濱野 理性的なコミュニケーションは言語の壁が非常に大きいんですけど、感情レベルのものはだいぶ敷居が低いように思います。

山極 「社会言語」という概念があります。言語自体には意味合いがないけれどもコミュニケーションに使われる言葉で、代表的なものがあいさつの言葉です。絵文字やLINEのスタンプもそうでしょう。今の状況は、社会言語を使うことが増えているということなのかなという気がしますね。

濱野 ソーシャルメディアの空間では一気に増えていますね。暴力性を発露させないように、適切な関係性を保つために社会言語が使われているように思えます。

山極 社会言語は、ある意味でサルグループにも似ている気がします。そう考えると、人間は正しくサルになってきているのかもしれないですね(笑)。

山極 寿一

濱野 智史

やまぎわ・じゅいち／動物学者、京都大学教授。
1952年生まれ。ゴリラの研究から人類の起源に迫る研究を行う。著書に『ゴリラとヒトの間』『暴力はどこからきたか』『人類進化論』など。

はまの・さとし／情報社会学者、日本技芸リサーチャー。1980年生まれ。専門は情報社会論、メディア論。著書に『アーキテクチャの生態系』『前田敦子はキリストを超えた』など。